



園長のひとりごと

朝、子どもたちと挨拶を交わすと色々な挨拶が聞けて楽しみのひとつです。

元気に声をかけてくれる子。「おはようございます。」と立ちどまって頭を下げる子。なぞなぞを出してくれる子。お花をくれる子。朝は低音で、昼になるとパワー全開の子。にこやかに笑顔を向けてくれる子。虫を見せてくれる子。色々な明照っ子がいますが、それぞれ個性の光る可愛い子たちでいっぱいです。

さて、2学期も半ばに入り運動会も終えて、尚一層子どもたちは遊びこんだり活動に向けて協力し、コミュニケーションを取り合っています。時にケンカもありますが、他者の話に傾聴し、また試行錯誤をしながら自分の話を伝えたりする事などを通じて、社会の良い一員となるために学び合い、人としての土台を育てています。

今、記事を書いている最中も、まさに子どもたちの活動の賑わいがバックミュージックのサウンドです。「〇〇先生～、鉛筆けずり！」「先生は鉛筆削りではありません。鉛筆削りを貸してください、って言うんですよ。」などという会話が聞こえています。保育の中のワンシーンですが、子どもたちがどの社会に出た時にも通用する人間性を身につけていくために、おらかな中にきめ細かく指導をしていきます。

最近忘れものをする子から「ママが忘れた」という言葉を聞くことがあり、それは私の子ども時分のことと重なりました。ある日、私も忘れ物ではありませんが、親のせいにした事があり、ひどくしかられました。人のせいにするのは、自分ごとではないということです。私は深く反省し、人のせいにはしない事を覚えました。ですので子どもたちにも「ママが悪いのではないよ。ママも間違えちゃう事もあるの。」と伝えています。人のせいにしてしまう文化があると不協和音が生じますので、お互い様の精神を教えていきましょうね。

年長組さんになれば、自分の身支度などは心掛けてできるようにしていきましょう。それが自立であり自律に通じ、その子の幸せにつながります。

また、お願いですが、子どもにとっての忘れ物は、その子によってはその日の活動に影響する事がございますので、なるべくそのような事がないようにお願いします。

秋空に子供たちの声が高らかに響いています。

健やかな成長を楽しみに見守っていきましょう。

2023年11月

園長 杉田雅美

